

【4】指導参考事例集

指導参考事例①

テーマ：「薬物」を「乱用」するとどうなるの？

1. 目標

薬物の種類を学び、それらを乱用するとどうなるのか、自分や家族にどのような影響があるのかを学び、1回の過ちの結果、自分の夢や希望をつかめなくなる恐れがあることを学ぶ。

また、実際に薬物の乱用を誘われたときにどのように断るかを自分で考えてみる。

2. ねらい

1) 薬物とはなにか、また、薬物の種類を知る。

- ①「覚醒剤」、「麻薬」、「大麻」、「危険ドラッグ」、「シンナー等有機溶剤」等々があるが、いずれも依存性があり危険な薬物である。また医薬品である「向精神薬」も医師や薬剤師の指示どおりに服用せず、治療目的から外れた場合は乱用となる。
- ②特に「覚醒剤」は、摂取することにより幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすことを理解する。
- ③SNS 等においては、隠語（別名、俗称）を用いて取引されることが多く、「アイス、エス（覚醒剤）」、「チョコ、ヤサイ、クサ（大麻）」などと呼ばれることもある。

2) 薬物乱用はたった1回でも「乱用」になることを知る。

- ①薬物の乱用は何回も使用することが乱用ではなく、「好奇心から」、「興味本位で」、「その場の雰囲気で」、たった1回使用しただけでも「乱用」である。

3) 「依存」「フラッシュバック」について知る。

- ①薬物の最も恐ろしいところでもある、やめたくてもやめられなくなる性質（依存性）があることを理解する。

②乱用した後、一時的に乱用をやめられたとしても、「単にストレスを感じた」、「テレビで注射器を観た」等により、乱用した時と同じような幻覚や妄想が現れ、乱用の再開につながることもある。これを「フラッシュバック」（自然再燃）といい、一度薬物の影響を受けた脳は、薬物を使う前の状態に戻ることはなく、常に「フラッシュバック」の恐怖を背負って生きることになる。

4) 薬物乱用による「身体的影響」「精神的影響」「社会的影響」について話し合い、知識を深める。

●身体的影響及び精神的影響だけでなく、それまでの学校生活や家庭生活が送れなくなる等、社会的影響も非常に大きいことを理解する。

5) 実際に誘われた場合の「断り方」をひとつでも多く考える。課題を自分事ととらえて自身で考え、他者の意見を聞いて自分の考えを深める。

●「仲間外れにされるかも」「仲の良い友達だから断りづらい」と思うかもしれないが、心身に悪影響を及ぼすものを勧める人は、本当の仲間でも友達でもないことを理解する。

●「はっきり、きっぱり」断ると相手が諦める可能性が高くなる。

●言葉で断れない場合、少しでも早くその場から立ち去ることが重要。

6) 薬物乱用は1回でもダメ。1回の過ちで自分の夢や希望をつかめなくなる恐れがあることを理解する。

3. 進行表

時間	活動	教員の作業・留意点
3分	①目標を確認する。	○ワークシートを配付する。 ○目標を説明し、何を学習するかを明確にする。
19分 (22分)	②前述のスライド資料により基礎知識を学ぶ。	○スライド資料を配付して、講義形式で基礎知識を学ばせる。
3分 (25分)	③グループワーク ワークシートの「課題1」についてグループで話し合う。話し合いながら記入していく。	○スライド資料から得た基礎知識を活用し、薬物の名前を挙げてもらう。
7分 (32分)	④グループワーク ワークシートの「課題2」についてグループで話し合う。 いくつかのグループに発表してもらう。	○どんな悪い作用があるかについても話し合わせ、記憶の定着につなげる。 ○特に「依存」「フラッシュバック」の恐ろしさを学んでもらう。 ○乱用した場合の様々な悪影響について考え、話し合ってもらう。話し合いが進まない場合は、「身体的」「精神的」「社会的」な影響を考えるよう促す。
15分 (47分)	⑤グループワーク ワークシートの「課題3」についてグループで話し合う。 いくつかのグループに発表してもらう。	○実際に誘われた場合の断り方をひとつでも多く考えさせ、聞かせる。 ○発表させる生徒を誰にするかも重要。 クラスの盛上げ役が適任者。
3分 (50分)	⑥まとめ	○この時間の目標を再度説明し、薬物の乱用は1回でもダメと理解させる。 ○ワークシートを回収する。